

# 架け橋

～広域紋別病院だより～



DMA T研修の様子

## 目次

1. 表紙
2. 企業長へのインタビュー
3. 診療部から(小児科)
4. 医療技術部から(臨床検査係)
5. 看護部から(透析室)
6. Q & Aのコーナー(眼科)
7. 新病院の建設工事の今(建設準備室)・健康レシピ(栄養指導係)
8. 病院行事報告・編集後記

### 病院理念

みなさんと心をひとつに、互いに尊敬と感謝の気持ちを共有し、笑顔の医療を提供します。

- ・常に、質の高い医療を安全・確実に提供します。
- ・生命、人としての尊厳を敬い、心のかよう医療を提供します。
- ・人材の育成に努め、働く喜びを共有できる環境づくりを進めます。

## 企業長へのインタビュー



企業長 千賀孝治

広報誌第2号は、病院事業管理者である千賀孝治企業長にインタビューし、地域医療や広域紋別病院に対する思いを語っていただきました。

**Q.1 企業長は当企業団に来られ、約2年が経過しようとしています。この2年間で振り返られ、どのような思いがありますか。**

**A.1**

- 北海道からの移管を受け、西紋地域の病院として広域紋別病院が誕生しましたが、西紋5市町村長さんや、関係者の方々のご意見を伺いますと、この病院に対する期待や要望が非常に大きいことがわかり、改めて、地域にとってかけがえのない病院であると思っております。
- また、医師の地域偏在により、当院でも、医師が充足されていない診療科もありますが、札幌医大・旭川医大医局からの応援や、他の病院の協力も得て医師を派遣していただき、「総合病院」としての機能は維持されていると思っておりますが、更なる充実に努めたいと考えています。
- 医師の確保問題は、簡単に解決できることではありませんが、企業団としても、あらゆる方面から全力で取り組んでおります。

**Q.2 企業長は、医師でもあります。これまで勤務されてきた病院等で、思い出に残っていることなどがあれば、教えてください。**

**A.2**

- 私が、市立三笠総合病院に院長として勤務していた時ですが、平成13年に、国土交通省の光ファイバーを活用した広域医療情報ネットワークの実証実験（画像転送）事業が実施され、札幌医大との遠隔医療に参画いたしました。現在、新病院においても、電子カルテを中心とした医療のIT化を進めておりますが、この時の経験を活かせるものと考えております。

- また、平成16年から医師の新たな臨床研修制度が開始されましたが、臨床研修病院に参加するため、空知地区から私どもの病院を含め9病院が手を挙げました。一般的な疾病に接する機会の多い「救急」に力点を置いた研修プログラムを作成したのが決め手となったのか、空知地区から唯一研修医1人の採用が決まりました。この事は、全職員の励みとなり、やれば出来るという自信にもつながり、今でも、うれしい思い出となっております。

**Q.3 平成27年度には、新病院が開院する予定となっておりますが、改めて、広域紋別病院は、地域にとってどのような存在であるべきと考えていますか。**

**A.3**

- 国では、昨年8月に示された「社会保障制度改革国民会議」の報告書を踏まえ、医療制度改革を進めておりますが、急速な少子高齢化の進行を見据え、今後は、これまでの「医療完結型」から医療・介護・生活支援が一体となった「地域包括ケア（地域完結型）」を目指す方向にあります。
- 現在、医療法の改正に向けた動きがありますが、一般病床を高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4類型に病床機能を分化して、医療機関が各病床機能を自主的に選択し都道府県に報告し、そのデータを基に、都道府県は、圏域毎の地域医療ビジョンを策定することが検討されております。当院においても、これら国の動きを注視し、地域センター病院として二次医療・二次救急の機能を維持していくほか、現在、建設中である新病院の機能にも活かしつつ、地域の開業医の先生方との連携に努めていきたいと考えております。



## 診療部から

### ～小児科について～

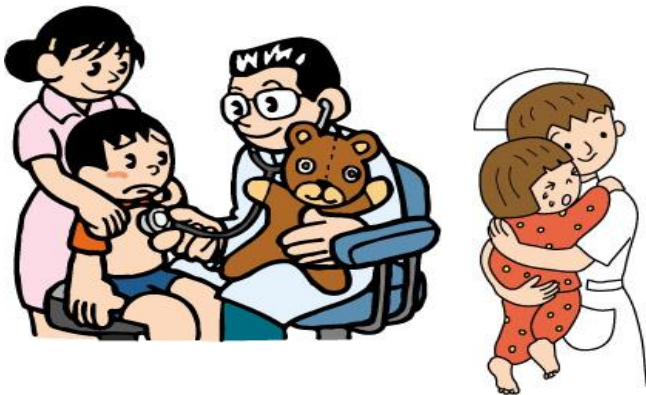
小児科では現在医師三名体制で診療を行っており、通常診療として、感染症一般、アレルギー、予防接種、1ヶ月検診を主に行っています。その他に専門診療として、旭川医科大学小児科より内分泌、血液、神経、心臓の専門医を派遣していただき、各種専門外来を行っており、旭川医科大学と連携して診察しています。お子さんの病気について疑問などありましたら、小児外来にお問い合わせください。



小児医療センター長 須貝理香



日々の診療をとおして、子供たちの回復力には、毎日驚かされています。ほんの少しでも、患者さんが元気になるお手伝いができればと思って日々の診療を行っています。



### 小児科からのお知らせ

現在小児科は、都合により医師2名体制で診療を行っています。

そのため、**水曜日午後の一般外来を休診**としています。

また、外来の待ち時間などは通常より大変お待たせしている状態となっています。

皆様には大変なご迷惑をおかけいたしますが、受診の際は、その旨ご理解の上、ご協力よろしくをお願いいたします。



# 医療技術部から

## 《臨床検査係について》

臨床検査係は臨床検査技師 5 名で構成されています。

臨床検査とは、患者さんの病気の状態を調べたり、病気の早期発見、治療方法の判断や治療効果の判定のために行う検査です。

臨床検査は検体検査と生理機能検査の二種類に分けられています。

検体検査は患者さんから採取した検体（血液、尿、便など）をもとに検査します。

生理機能検査は患者さんの身体を直接検査します。

## ◎検体検査

検体検査は検査内容によってさらに分けられ、当院では一般検査、血液検査、生化学検査、免疫血清検査、輸血検査を行っております。ここで簡単にどのような検査を行っているか紹介いたします。

【一般検査】尿中に含まれる蛋白や糖、細胞などを調べ、腎臓機能を検査します。また、糞便を用いて下部消化管の出血の有無や寄生虫卵の検査を行っています。

【血液検査】血液中の白血球、赤血球、ヘモグロビンの量などを調べ、貧血や血液疾患等の検査を行っています。



【生化学検査】血液中の液体成分（血清）に含まれる血糖やタンパク質、酵素、ミネラル、脂質などを調べます。肝機能や腎機能、糖尿病などのさまざまな病気の状態がわかる検査を行っています。

【免疫血清検査】腫瘍マーカーと呼ばれている、腫瘍から産生される物質や、甲状腺ホルモン、肝炎ウイルスなどの検査を行っています。また、インフルエンザやマイコプラズマの検査も行っています。

【輸血検査】血液型検査や輸血が必要になったときに行う事前検査（交差適合検査）を行っています。

血液製剤や自己血の保管、管理も行っています。

## ◎生理機能検査

さまざまな測定機器を使用して、心電図、肺機能、脳波検査、血圧脈波検査（ABI）、心臓超音波検査などを行っています。身体から発生する電気信号などを記録したり、超音波を用いて血管や臓器の状態を画像にして身体情報を提供します。



## ◎緊急検査

24時間体制で、診療上特に重要な検査を行い、救急医療の一端を担っています。

## ◎採血業務

平日の午前中、内科外来にて採血をしております。





# 看護部から

## 【透析について】

### 「透析って何だろう？」

透析という言葉聞いたことがあるでしょうか。「透析」とは、働きが低下した腎臓の代わりに、老廃物（身体にとって不要な物）や余分な水分を身体の中から取り除く治療方法のことをいいます。

人工腎臓を通して血液中の老廃物や水分を取り除きます。

健康な腎臓は24時間働いていますが、治療として行う透析は週に3回、1回に3～4時間となります。いくら腎臓の働きを人工的に補うといっても限度があります。

その為、患者様には日々の食生活や体重調整などの自己管理がとても重要になります。

私たち看護スタッフは透析治療が安全に続けられるよう日々の生活もサポートさせていただいています。



透析機器の調整

### 「ご存じでしたか？」

当院の透析室には10台の透析機器と感染症などに対応するため個室に1台の計11台の透析機器があります。

医師の指示により患者様は、月水金（午前・午後）、火木土（午前・午後）のスケジュールで透析を受けています。

及川院長をはじめとする外科医師と本年度10月から常勤医となった循環器医師に加え、旭川市内の透析医のサポートがある中で患者さんの治療にあっております。



透析室の様子

### 『ナースこぼし』 その2

外来でカルテを見ながら「ブツブツ」言っている看護師を目にされたことはありませんか？グチをこぼしている？いえいえ。実は医師からの指示を口に出して確認しているのです。

「何度も生年月日や名前を聞かれるのはなぜだろう？」と思われた方はいらっしやいませんか？

『ご本人様確認』のためご協力いただき、ありがとうございます。

患者さんに安心して治療や検査を受けていただけるよう職員一同努めてまいります。

## Q & Aのコーナー

【白内障について眼科の先生にお聞きしました。】

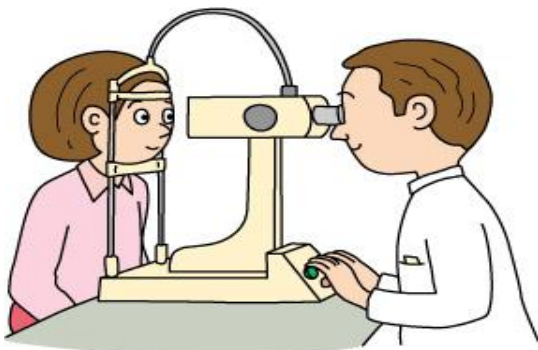
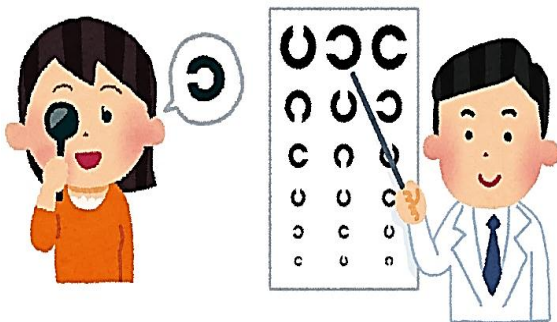
Q.

60歳代の女性です。

眼科で軽い白内障と言われましたが、普通免許は更新できました。

しかし運転中に明るい所や、ライトがキラキラとまぶしく見えづらさがあります。

どうしたら良いでしょうか？



A.

白内障は年齢とともに増え70歳代で約8割、80歳代ではほとんどの方に認められる病気です。

主な症状は視力の低下(かすみ・ぼやけ)ですが、その他にも物が二重に見えたり、今回のご質問のように羞(しゅう)明(めい)感(かん)(まぶしさで見えづらくなる)といった症状が現れる場合があります。

白内障は軽度であれば視力に問題ないことが多く、車の免許更新は可能です。

しかし、羞明感(しゅうめいかん)は白内障の程度が強くなくてもあらわれることがありますので、まぶしさのため見えづらくなり車の運転に支障(しじょう)をきたす場合が出てきます。

白内障のある方は交通事故率が高いということが知られていますので、このような症状をお持ちの場合は、眼科を受診していただき、治療が必要な白内障かどうか医師にご相談ください。

白内障治療の一つに手術治療がありますが、残念ながら当院では行っていないため、手術の必要な方には他院を紹介させていただき、紹介先での治療となります。

そのため、すぐに手術を受けていただくことはできません。

特に西紋別地域では多くの方が自家用車をご使用されていますので、同様の症状をお持ちの方は早めに当眼科を受診していただき、免許更新までに少しゆとりを持って準備されることをおすすめいたします。



# 新病院の建設工事の今

○現在の新病院建設工事の様子

1月現在、クローラークレーンと呼ばれる大型のクレーン等を使用し、防寒養生用の上屋を組み立て、基礎・地下免震層の基礎コンクリート工事が進められております。

2月には、いよいよ免震装置を設置し、その後、1階の床工事に取りかかります。

なお、工事の進捗よく状況や現場写真等については、随時、広域紋別病院ホームページにて公表しておりますので、どうぞご覧下さい。



基礎工事が進められております



防寒養生用の上屋を組立中です

## 健康レシピ

### れんこん【蓮根】

独特の食感を持つれんこんの旬は、秋から冬にかけてです。

お正月やお祝いの席でよく使われるれんこんですが、穴が空いていることから遠くが見え「見通しがきく」として縁起物とされています。

れんこんは便秘改善に効果的な食物繊維と、高血圧予防に良いとされるカリウムを含んでいます。また、胃腸の粘膜を強くする作用がある「ムチン」や、炎症を抑える働きのある「タンニン」もれんこんには多く含まれています。年末年始でお疲れ気味の胃腸にやさしい食材です。

### れんこん団子のしょうが味噌汁

1人分155kcal 塩分1.3g ビタミンC 27mg  
《作り方》

- れんこんは皮をむいて酢水(材料外)に3分さらす。水気を切ってすりおろし、白玉粉を加えてよく練る。12等分して丸め、それぞれ中央を軽く押し、くぼませる。
- なべにだしを煮立て、1を入れる。再び煮立ったらふたをして約3分煮立てる。ねぎを加えてさっと煮、みそをとき入れる。煮立ったら火を消し、碗に盛ってしょうがをのせる。



れんこんでエネルギーとビタミンCを補給できる!!  
れんこんをすりおろすため消化しやすい。

#### 材料/2人分

れんこん	100g
白玉粉	約50g
だし	1と3/4カップ
ねぎ(小口切り)	1/2本(50g)
みそ	大さじ1
しょうがすりおろし	1かけ分

参考：栄養と料理 2012 1月

# 病院行事報告

## 1) 「広域紋別病院企業団章が決定」

広域紋別病院企業団では企業団章を公募していましたが、去る平成25年10月17日に開催した選定委員会において多数の応募作品の中から**最優秀作品**として **中島 沙貴**さん（紋別市在住・女性）の作品が選ばれました。

### 【デザインの趣旨】

5市町村の頭文字M（紋別）、T（滝上）、O（興部）、O（雄武）、N（西興部）をモチーフに枠を描きました。市町村が一体となって、人と人が支え合い、一つになっている様子を表現しています。また、地域の特徴である空と海の色から濃い水色を使用しました。

また、優秀作品には、平石 透さんと 森田 悟さん（共に紋別市在住・男性）の作品が選ばれました。  
多数の応募、ありがとうございました。

## 企業団章 採用作品



## 2) 「院内BLS研修会」を開催しました。

BLSとは、Basic Life Support（一次救命処置）の略称です。一次救命処置とは、急に倒れたり、窒息を起こした人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のことです。

広域紋別病院に勤務する医師・看護師の他に、医療技術スタッフ、事務職などの職員が、一次救命措置について実技を伴う研修を行いました。参加者全員が心肺停止時の蘇生実技に真剣に取り組んでいました。  
また、この研修を受け、医療スタッフ以外の職員も改めて初期段階での一次救命により、助かる命の割合が高くなることを痛感しました。



## 3) 「当院にもDMATチーム」が誕生しました。

去る12月に医師2名、看護職2名、事務職1名が神戸市で開催されたDMAT研修(実地訓練等)を受講し、DMATチームが編成されました。二次救急病院として徐々にではありますがソフト面も充実した病院となってきています。



### 編集後記

お陰様で、広報誌も第2号を無事発行することができました。

前号の反省を踏まえつつ、作成したつもりですが、なかなか思うようにはいかないものです。

これから3ヶ月に1度の割合で発行する予定ですが、回を重ねるごとに、より良い誌面となるよう職員一同努力して参りますので、これからもよろしくお願いたします。

編集：広域紋別病院広報委員会

発行：広域紋別病院

〒094-8709

紋別市緑町5丁目6番8号

TEL・FAX 0158-24-3111

URL：<http://www.mombetsu-hospital.jp/>